

トータル保険だより 春号

●第184号 広報トータル保険だより
平成23年3月1日 (有)トータル保険
〒997-0853 鶴岡市小淀川色田 69-28
TEL 0235-25-1315 FAX 0235-25-1064

娘からの電話

「お母さん、達樹がね、『お父さんとお母さんの子どもに生まれてよかった』って言ったのよ。大学生の達樹がよ。私は幸せ者だわ！」
陽子さんに、広島に住む二女のひとみさんから、弾んだ電話がかかってきました。陽子さんはひとみさんに、なぜ達樹君が「お父さん、お母さんの子でよかった」と言ったのか、尋ねてみました。すると、次のように、その時の様子を話してくれました。

それは、九州の大学に進学した達樹君が、前期カリキュラムを終えて帰省し、久しぶりに家族6人で夕食を囲んでいる時の事でした。



私たちは、あらゆるリスクについて、お客さまと一緒に考える会社です。そして、生涯幸せで安心した生活を送って頂けるよう、サポートさせて頂きます。 店主



兄につられるように、子どもたちが、「お父さん、お母さん、ありがとう」という大合唱を始めたのです。ひとみさんは、感動に胸が詰まる思いだったと言います。

ひとみさんにとって、長男の達樹君を育てることは初めてづくしで、手探りの連続でした。それまで、さほど気に留めることもなかった親と子の結び付きを、ひとみさん自身も、離れてみて初めて感じていたのです。

食事をしていると、「達樹はちやんと食べているだろうか」と思い、布団に入ると、「今日も元気に過ごしたかしら」と、わが子を心配する母でした。その思いをくみ取るかのように、達樹君から「ありがとう」と言われ、わが子の成長に涙がこぼれそうになったと言います。

そう話すひとみさんの声に、陽子さんも喜びに満たされていきました。離れて暮らす子や孫の幸せを伝える便りほど、安心と幸福を感じさせてくれるものはありません。

連日のように、親子を巡る悲しい事件が報じられ、その救われ難さに心を痛めることの多い昨今です。陽子さんは毎日、子や孫一人ひとりのことを、祈っています。それだけに、娘親子が信頼と愛情に満ちた関係を築いていることを知り、陽子さんは心の底からうれしく思いました。

何でも親身になってくれる

山形市在住 坂西直美さん

数年前、入院していた病院の同室の方との出会いがきっかけでした。その方は庄内の方で、生命保険を大川さんにかけており、入院中、生命保険の話から「よかったら私の入っている方を紹介するね」の一言から大川さんを紹介して頂きました。

鶴岡の方なのに山形市まで来て頂き、お話しをさせて頂きました。とても親身になって相談に乗ってくれ、希望通りの生命保険に家族全員加入することができました。

その後、実家の関係でかけていた自動車保険もお願いすることとなり、この前は、子どものスポ少中の怪我の心配もあつたので傷害保険もお願いしました。すぐに対応してくれ、お任せしておけば安心！から保険はぜひお願いします。



これから面倒見てください。よろしくお願います。